

あおぞら

発行:愛知県被災者支援センター

住所:名古屋市東区泉 1-13-34

名建協 2 階

TEL:052-971-2030

FAX:052-971-2050

開館:月曜～金曜 10時～17時



夏の各種イベント・映画の案内チラシ



【支援情報】「令和6年能登半島地震により二次避難・広域避難で愛知に來られたみなさまへ」

- 「能登半島地震避難者支援ネットワークあいち」
(認定 NPO 法人レスキューストックヤード内)
被災・避難のこと、支援制度のこと、不安なこと、
どこに相談したらよいかわからないことなど、
まずは気軽にご連絡ください。

Tel : 052-253-7550 (平日 10:00～18:00)

E-mail : info@rsy-nagoya.com

【名古屋市にお住まいの方の窓口】

- 被災者支援ボランティアセンターなごや

Tel : 070-5587-7153(平日 9:00～17:00)

電話相談・来所相談いずれもお受けしています。

【2024 年度 9 月号 153 号】

も く じ

- P1. 表紙写真:
P2. 交流会報告:あおぞらカフェ、レシピ
P3. 能登半島地震避難者支援・交流会「じんのび能登カフェ」
P4. 飛島学園防災学習報告会
P5. より快適な避難所の支援を考える②
イタリアの避難所(上)
P6～7. 投稿//私の3歳の引き揚げ体験、
おすすめの一冊『森と魚と激戦地』
P8. イベント情報、あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク、編集後記

あおぞらカフェ

「ハーブティーで

夏を乗り切りましょう!」

@RSY 8/10(土)



濃いピンクが鮮やかな
ハーブティーでした



体調も回復した鈴村さんが1年ぶりの講師で、楽しくおしゃべりしました

猛暑の中で半年ぶりのあおぞらカフェでしたが、4世帯4名の参加者とボランティアが加わり、楽しくおしゃべりがはずみました。疲労回復や免疫力を高めると言われる「ローズヒップとハイビスカス」のハーブティーは、酸味が爽やかでした。

さっちゃんのレシピ・夏のスペシャル! 「とうふのグレープフルーツババロア」

【材料】(4人分) … (例: 大1→大さじ1、10→1カップ)

A) ゼラチン大1(水大2)、絹とうふ1/2丁、牛乳10、砂糖大2.5、生クリーム1/20、砂糖大1

B) ゼラチン小1.5(水小2)、水10、砂糖大2

グレープフルーツ適宜、ミントの葉少々

【作り方】

〔A液を作る〕①ゼラチンを分量の水で柔らかくしておく

②豆腐は裏ごしにする

③牛乳に砂糖と①を加え、温めて(沸騰はさせない)ゼラチンが溶けたら、あら熱をとる

④生クリームに砂糖を加え泡立て、②③を混ぜてグラスに入れ、冷蔵庫で冷やす

〔B液を作る〕⑤ゼラチンを分量の水で柔らかくしておく

⑥水10に砂糖と⑤を入れ、温めて(沸騰させない)ゼラチンが溶けたらあら熱をとる

⑦④の〔A液〕が固まったらグレープフルーツを飾り、〔B液〕を注ぎ冷蔵庫で冷やし固める

⑧⑦が冷えて固まったら、ミントの葉を飾り出来上がり

※グレープフルーツの代わりにキウイフルーツや桃、缶詰などでも美味しい

(缶詰を使う場合は、〔B液〕の水の代わりに缶詰のシロップを使うと良く、その場合、砂糖は入れない)



能登半島地震避難者交流会 8/4(日)@名古屋城

＝能登半島地震避難者支援ネットワークあいちからの報告＝

今年1月1日に発生した能登半島地震から早や7ヶ月以上が過ぎ、被災地の復旧、復興もなかなか進まず、県外避難者の方々の支援もやっとスタート地点に着いたところです。施設等への二次避難や県外避難の方々が、愛知県・東海地域のどこにお住まいなのかなかなか把握できない事や、初顔合わせで顔やお名前も覚えて、信頼関係の構築もこれからです。

まずは8/4(日)に、名古屋城(本丸御殿孔雀之間)で、第一回避難者交流相談会「じんのび能登カフェ」が開催されました。

(主催:能登半島地震避難者支援ネットワークあいち〈事務局:認定NPO法人レスキューストックヤード〉、被災者支援ボランティアセンターなごや協力:中部石川県人会、石川県、愛知県、名古屋市、愛知県弁護士会)。



名古屋城天守左が本丸御殿



本丸御殿孔雀之間で初めての交流会

一口に能登半島と言っても、東日本大震災の被災地と同様に、それぞれの地域性があり、珠洲市や輪島市といった「ふるさと・同じ地区からの避難者に会いたい、話したい」という想いで、出会いを求めています。そのようなお姿は、かつての東日本大震災の広域避難者の方々と重なるように思われます。

また震災で壊れた家屋等の解体や法的手続き等を弁護士や司法書士等の専門家に相談し、健康面での相談には在宅保健師の方

ちに話しアドバイスを受けていました。

石川県、輪島市の被災地の行政の担当者、石川県人会の他、愛知県、名古屋市、名古屋市社協からの担当者も顔を突き合わせな



名古屋城の武将隊がお出迎え



「よろず相談」は専門家(弁護士・保健師)・行政(石川県・愛知県など)



避難者の皆さんが武将隊と記念撮影

がら、今後の支援のあり方について、意見交換をしました。



倒壊家屋の解体など相談

飛島学園防災学習報告会//令和6年度 飛島未来探求科「TOBI探」9年生発表会

「目指せ!防災力アップ!守ろう!自分・地域の未来!~私の考える防災~」

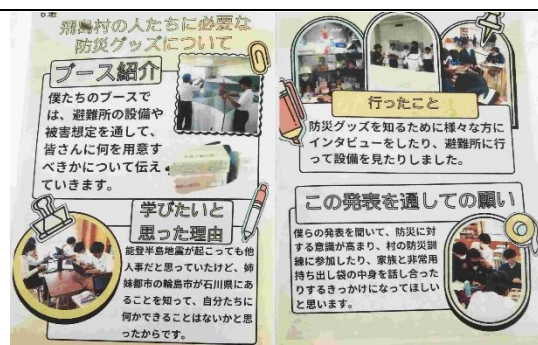
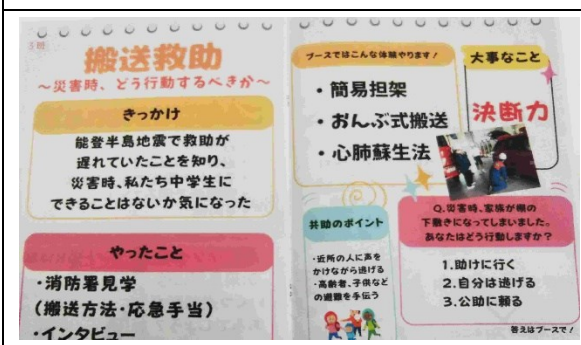
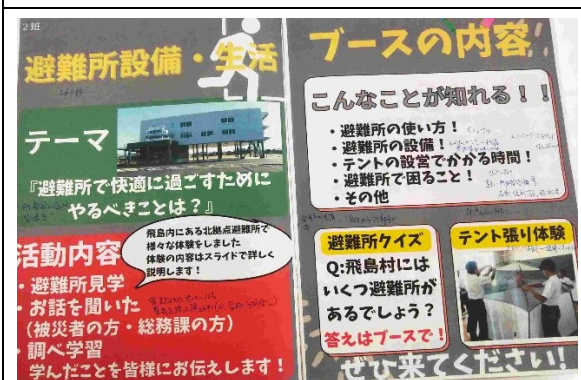
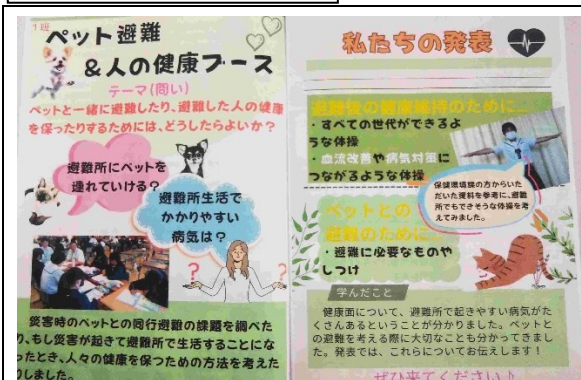
7月16日(火)13:45~15:35に飛島学園で、飛島未来探求科9年生が防災について、施設訪問や調査活動など課題解決へ向け取り組み、調査したことや考えたことを発表する発表会が行われました。

6つの班ごとに「人とペットの健康」「避難所」「搬送・救助」「楽しく防災」「防災基礎知識」「体験・防災グッズ」(参照:下の『発表リーフレット』)と探求課題を決め、全体発表、ブースごとの発表やワークショップがありました。飛島村行政関係者の方々、保護者の皆さんも多く参加され、愛知県被災者支援センターからは、4月の防災教室で東日本大震災での被災体験を話された6名の内2名の方が参加されました(参照:『あおぞら』151号)。参加者のお二人に感想をおたずねしました。

◎今回の発表会を聴講させていただきましたが、私たちの他にも大勢の方々の聴講があり、びっくりしました。この発表会が、飛島学園の企画であるのと同時に、飛島村全体が全面的に支援していることを強く感じました。私は今回発表される項目から、「人とペットの健康」と「災害にどう備えるか」を選び、活動を聞かせてもらいましたが、どちらのブースも実によく現状の実態把握、その改善策について、外部の方々からの情報収集と課題検討を積極的に集め、成果をまとめられていました。9年生で、ここまで内容をまとめら

れているのには驚嘆しました。
(名古屋市守山区 西村淳一)

◎貴重な体験に感謝です。地震により落ち着かない生活になっていますが、皆さん夏バテに気をつけてください。
(名古屋市緑区 鈴木真砂子)



より快適な避難所の支援を考える②—人権が守られる・イタリアの避難所の例(上)

==南海トラフ地震が来る前に==

(あおぞら編集委員：瀧川裕康)

現在の災害救助法、第1条 目的は、災害に際して、国が地方公共団体、日本赤十字社その他の団体及び国民の協力の下に、応急的に、必要な救助を行い、災害にかかったものの保護と社会の秩序の保全を図ることを目的とする。

とあるが、もっと国が積極的に、被災者が可哀そうな人へ応急的に少し助けてあげる、という考え方ではなく、同じ人として、人権を問う根本的な目的に変えられないだろうか？例えば・・・

第1条 目的=国は、被災者に無償で健康で文化的な生活の保障と、元の生活を取り戻すまで、国を挙げて支援することを目的とする。

① 折角助かった命なのに

===避難生活で死ぬなんて？===

災害から免れても、避難生活で命を亡くす方がとても多いことに心が痛む。人道支援としての避難所運営ができないものだろうか？台湾は6年前から、イタリアは44年前から改善されている。日本でもできるはず！

② 避難所の根本的な改善を！

避難所で出来る限り「普段の生活」を提供し、関連死に至らないことを保障したい。そのためにやることは T (トイレ)、K (キッチン) B (ベッド) からと言われている。

③ 公助とボランティアの連携を

「自助」「共助」「公助」どれも大切！だが、更に言うならば、公助とボランティアの連携を強化すること、ここに台湾やイタリアのような人道支援が実現できるのではないか？そのために準備したいこと。イタリアの例=キッチンカー、食堂、トイレ、シャワー、ベッド、テント。これらを公費で購入し、自治体が保管、ボランティアが管理運営～日常的に訓練する。それが出来るならば、災害後その日の内に現場に持ち込むことができる。

④ 例えば、食費を増額したい！

イタリアでは 1食1,200円。日本は一日1,200円。これくらいなら改善できるのではないかな？

⑤ 国と都道府県に防災の専門機関を置く！

そのどちらにも、防災ボランティアの登録があって、何も起きない年には一緒に訓練をする。



イタリア=2012年エミリア地震にて設営されたカベッツオ市避難所の食堂
(日本災害食学会誌 VOL.7 NO.1 PP.15-26 MARCH 2020) 笠岡(坪山)宜代から



(上) テント内のベッド
(下) トイレとシャワーが備え付けられたコンテナ
NHK「国際報道 2024」WEB 特集 キャスター

戦後79年が経ったこの夏に当たり、いつも各地での交流会などで大変お世話になっている富田祥子さんに、ご自身の3歳での過酷な戦争の引き上げ体験を寄せていただきました。

「3歳の時の体験とは？」

最近有難い事に、私の3歳の時の経験を大学生や高校生にお話しする機会を頂きます。3歳の時の経験とは、日本が第2次世界大戦に負け、当時住んでいた北朝鮮から、10ヶ月かけて日本に引き揚げてきた体験談です。「3歳の頃の事なんて覚えていないでしょう？」とよく人に言われますが、普通のことでは無かったので、年齢に関係なくはっきりと記憶しているのだと思います。

「なぜ北朝鮮で？」

当時の事がある程度の年齢の方にお話しする時は「北朝鮮で生れました」と言ってもあまり不思議には思われませんが、学生さんにお話しする時は当時の社会的背景をお話ししないと、「なぜ北朝鮮で？」と質問されます。戦前、資源のない日本は、力づくで朝鮮半島、中国、東南アジアなどに進出していました。

朝鮮半島には今の旭化成が北朝鮮に発電所を、その後、朝鮮窒素肥料を設立し、多くの日本人が働いていました。私の父親もその一人で、中国との国境近くの北朝鮮の茂山という所の発電所に勤めていました。私はそこの社宅で生まれました。

「1945年8月15日の敗戦、引き揚げ」

そして1945年8月15日の敗戦を迎え、社宅にいた人たちの逃亡のような引き揚げが始まったのです。父は現地召集され兵隊に行っていました。

「母と祖母と1歳半の妹と、3歳の私」

我が家は母、体が弱い祖母、1歳半の妹と6月に3歳になったばかりの私の4人です。母は妹をおんぶ用の紐で胸にくくりつけ、背中にリュックを背負っていました。その日は、終戦の日から多分2日位後だったようです。現地の人からの報復を恐れ、山の中を逃げ隠れしながらの逃避行が始まりました。水が流れている所が見つかればそこで休憩、辺りに落ちている枯葉や木切れを集めて

薪にして食事づくりです。持っていたお米や煎り米などは底をつき、山に生えている名前も分からない草を採って食べるようになりました。そしてそこで野宿です。

「人は普通ではなくなり」「150円で売られる子」

食べる物も無くなり、寝る所もなく、先が見えないまま山の中をさまよって歩く日が続くと、人は普通ではなくなります。自分が生きる事しか考えられなくなるのでしょうか。小学校低学年くらいの男の子が「川で泳がせてあげる」と母親に誘われ、頭を押さえつけてられて水に沈められ殺されます。現地の人に150円で売られる子もいます。食糧と交換される子もいます。

「寒さと飢餓、来る日も来る日も人が死んで」

やがて寒くなると寒さと飢餓などで来る日も来る日も人が死んでいきます。死んだ人は体を2〜3か所縄で結ばれ、その縄の所に長い棒を通して2人の男性に担がれて行きます。顔と足は出たままです。そして三角山に捨てるのだと大人たちは言っていました。1日に何回もそのような光景を見ているので、人が死んでも悲しいとか、寂しいとかは感じません。途中、親を亡くした子どももたくさんいました。夜になると親を亡くした子どもの泣き声が聞こえます。数日で声が聞こえなくなります。食べる物もなく子どもも死んでいきます。

「みんな自分が生きるのに精一杯」

みんな自分が生きるのに精一杯なので、よその子の面倒なんか見る余裕はありません。何か月もお風呂に入らないので、ノミやシラミがわき、シラミが媒介する発疹チフスにかかり、沢山の人が死にます。

「10ヶ月以上歩き続けて」

北朝鮮を出発して10ヶ月以上歩き続けて何とか南朝鮮(韓国)の安山という港町に着きました。そこから船に乗り、日本の土を踏む事が出来まし

た。祖母はあした日本に向かう船に乗るという日に、息を引き取りました。きっと安心して、張り詰めていた糸が切れてしまったのでしょう。

「中国からの留学生」

先日、私の話を聞いてくださった方の中に、中国からの留学生がいました。私の話を最後まで聞いてくれた彼は、中国の学校教育で南京虐殺などは学んだが、日本人の家族が中国や朝鮮などに来ていて、戦後苦勞して帰国した話は初めて知った、と言いました。そして世界には戦争をしたい人が

いるが、戦争をしたくない人の方が圧倒的に多い、だからそういう人たちが仲良くする事で、戦争を防げると言いました。本当に彼の言う通りだと思います。でもそれが一番難しい。

「戦争は始めたら簡単に終わらせる事が出来ない」

今や戦争は、どこか遠い国の事でもありません。遠い昔の事でもありません。いつの戦争でも、どの戦争でも、始めたら簡単に終わらせる事が出来ない事を、人間は学んできたはずですが、それなのに…

おすすめの一冊

新版『森と魚と激戦地—初めて明かされる太平洋の住民たちの受難と抵抗』

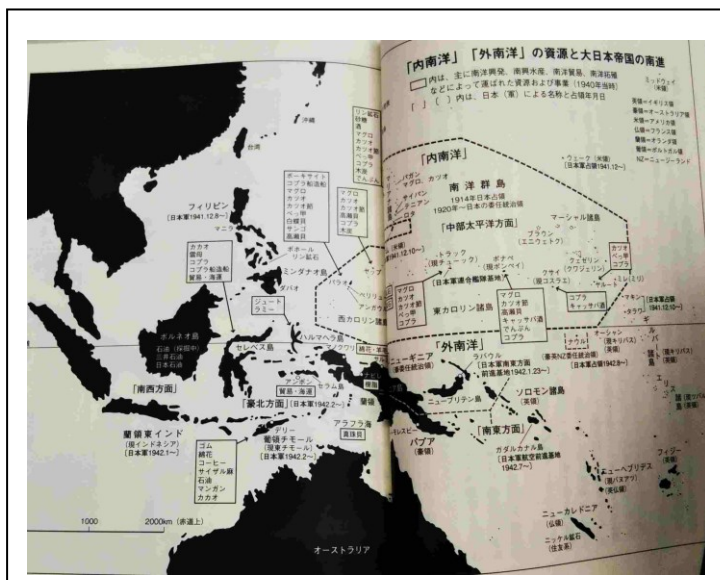
清水靖子著 三省堂書店/創栄社

かつて日米の戦いの激戦地だった太平洋。そしてその海と島々は、今、環境破壊の激戦地となっている。激戦地にさせられたパプアニューギニアのラバウル・ニューブリテン島、ソロモン諸島のガダルカナル島・ニュージョージア島、トラック諸島、グアム島、サイパン島、その他多くの島々。日本軍等に踏み込まれた村々の住民が何を見て、何を経験し、どのような傷や痛みを負いながら生きてきたのか、今どのように暮らしているのか。著者は6年間現地に住み、人々と交流しながら、住民の側からの涙ながらの話を聞きとった重い内容の本だ。

南海の楽園は、戦中は戦火と日本軍の暴虐に見舞われ、戦後のバブル期には経済戦争による環境破壊と資源の収奪の犠牲になり、現在は気候変動の影響を一番に受け、国土浸食、人々



- 太古の森と海に暮らす人々
- ラバウル恐怖の軍政と「日本皇軍慰安所」
- ティンブンケ村民虐殺事件
- ガダルカナル島秘話
- 日本軍占領下のムンダやベラベラ島では
- 海軍による捕虜への生体実験（トラック諸島）
- 民間人を集団処刑した秋風事件
- パラライ島で英軍捕虜と住民を集団虐殺
- 昔戦車、今ブルドーザー——日系三大伐採企業
- 誰が太平洋のマグロを消してきたのか
- 女たちのココナツ・ワイヤレス ほか



の生存が脅かされている。

しかし小さな島々の村人たちは、「開発」という名の日本企業による原生林の破壊に、ブルドーザーの前に身を横たえて抵抗し、巨大漁船のマグロ漁にも小さなカヌーで抗議した。島々の原生林の水源地では、子どもたちの輝く笑顔や女性たちの水辺での日常生活、蛍の点滅、光りながら泳ぐ魚の群れなど、生き物と村人との太古からの交わりが続いてきた様子も読み取れる。（戸村京子）

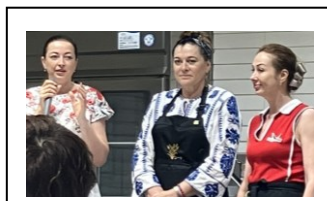
【イベント情報】 ＊開催・内容等が変更になることがあります。詳しくはチラシでご確認ください。

開催日	イベント名	内容（主催など）	会場
10/6（日） 10:00～15:00	岩手県・宮城県 気軽にお茶飲み 交流会	みんなで気軽にしゃべりしまし ょう！お昼ご飯は手作り（予定）で。 主催:同交流会実行委員会 共催: 愛知県被災者支援センター	東海市しあわせ村「保健福 祉センター」名鉄聚楽園駅 （準急/普通のみ停車）下車徒 歩 5 分
11/16（土） 9:30～13:00	濱田農園農作業体 験交流会 「さつまいも掘り」	6 月に植えたサツマイモの収穫、 親子でのご参加を！手作り軽食。 主催:同交流会実行委員会 共催: 愛知県被災者支援センター	東浦町の畑。収穫物持ち帰 りのため、自家用車での参 加をおすすめ。
12/1（日） 10:00～14:00	3 団体合同交流会 「冬のあったか芋煮 会」	共催：愛知県被災者支援センター、 東日本大震災被災者支援ボランテ ィアセンターなごや、震災・原発事 故による県外避難者自主グループ めぐりあいの会	発達センターあつた（名古屋 市熱田区神宮） 地下鉄名城 線「熱田神宮伝馬町」2 出口 5 分、市バス「熱田伝馬町」7 分、名鉄「神宮前」10 分

ウクライナ避難者の近況 ウクライナデー「リート(夏)」8/25(日)@名古屋市港区「プロ厨房オインス」

（あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク:事務局レスキューストックヤード）

8 月 24 日はウクライナの独立記念日。ウクラ
イナの料理を通して、ウクライナの避難民と交流
するイベント「リート(夏)」が、名古屋市観光文化
交流局国際交流課の主催(協力:みなとアクルス
まちづくり推進協議会・ウクライナ料理店
「ジート」)で開かれました。



最初に、ウクライナ避難者で名古屋市職員・ター
ニャさんが、一時帰国した故郷(オデーサ市)の
戦時下の様子を写真と動画で報告されました。

次に子どもたちによるウクライナ文化紹介で

は、ウクライナ語は避難児が、
翻訳の日本語は日本生まれの
子どもたちが担当しました。

避難者からウクライナの夏
のスイーツ「リニウィ・ワ
レーニキ」の調理・盛り付
けを教わり、ウクライナ料
理店「ジート」の食事券が
当たるウクライナに関す
るクイズも楽しみました。

【編集後記】

- ・気温が 39℃近い日の仕事からの帰り道、「チンタラ、チンタラ」よりももっとだらしなく、「チンタララ
～～、チンタララ～～」と歩いていると、後ろから来た人から「大丈夫ですか？荷物持ちましょうか」と
声を掛けられました。私って、いったいどんな歩き方をしていたのだろうか？(T.S)
- ・①今日もまた 昼寝ばかりの 一日か 高齢とは言え これでいいのか／②あおぞらの 原稿書かねば
たっぶりの 資料整理し ポチポチ書こう／③阿波踊り 男踊り女踊りも 見事なり この連(れん)だ
けで 100 名いたね(T.H)
- ・気温の下がった夜に秋の虫の音。まだまだ続く猛暑に虫たちも、熱い地中に息を潜め、時を待つ(T.K)